

第2図 兵庫県南部地震による墓石・灯籠の卓越転倒方位 (菊山ほか, 1996).

概念図	津波の挙動
	半島や岬のように、舌状に突き出した地形においては、海底地形が海岸に向かって徐々に小さくなるため、屈折により津波が集中する。
	遠浅の湾地形では浅海域への流れ込んだ内は反射を繰り返した挙動となり、津波の周期が湾内水の固有周期と一致すると、波高が大きくなる。
	湾横断幅が湾縦断方向の長さより大きい凹地形湾では、陸で反射した津波が陸棚で捕捉されて沿岸方向への伝播となるエッジ波が発生することがある。

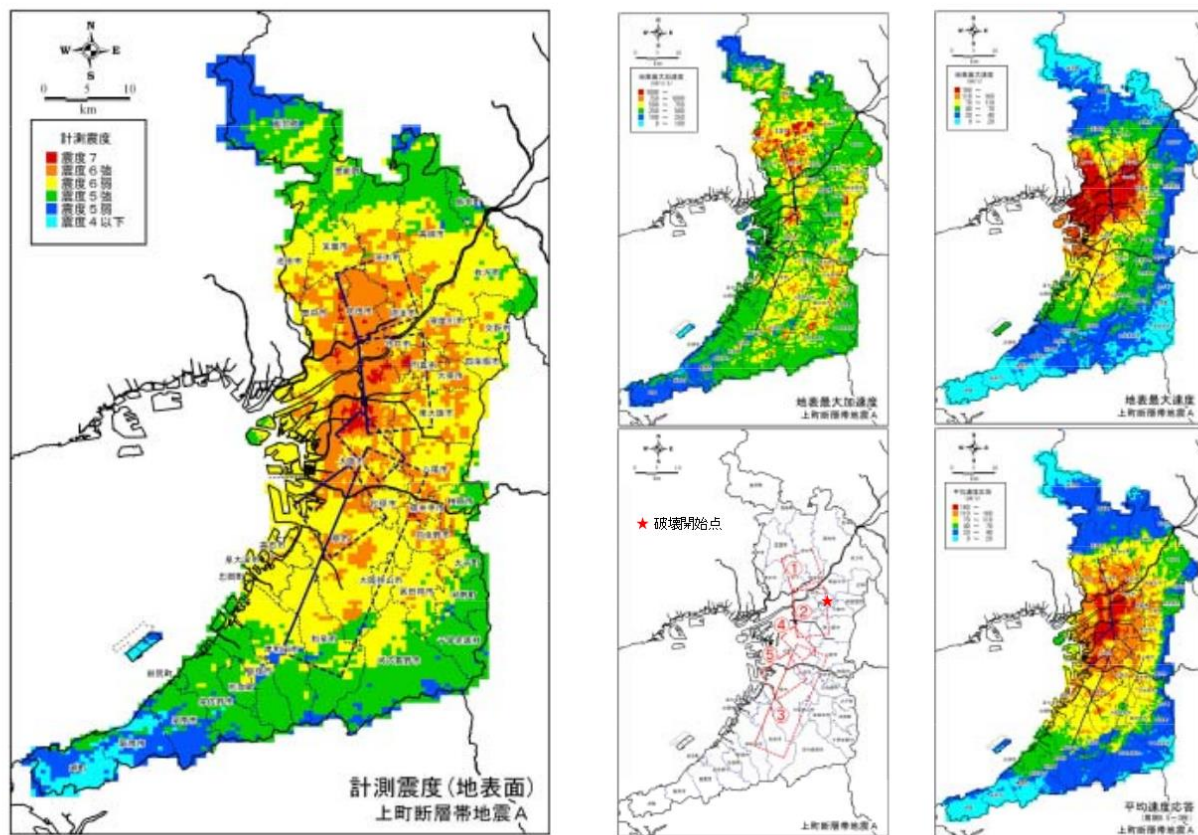
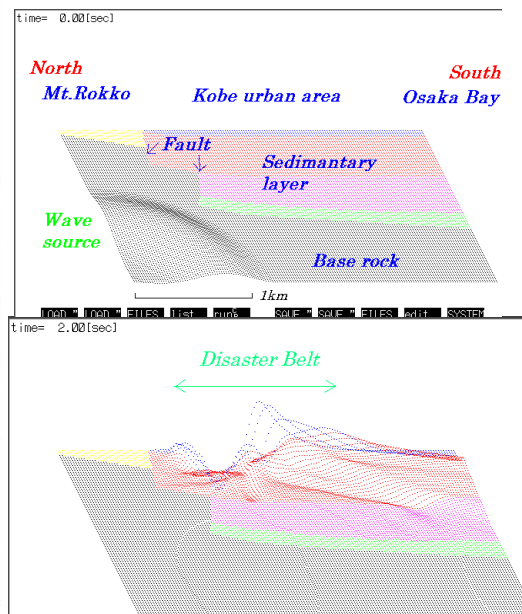


図3-1 ステップの地震動予測結果 [上町断層帯地震A]

[http://www.srm-bcp.com/lecture01/images/20120704135730\\_1.pdf](http://www.srm-bcp.com/lecture01/images/20120704135730_1.pdf) (上図)

図 14.3 湾内における津波の波高増幅 (下図)

リアス式の三陸海岸にある岩手県の宮古湾は、奥行き 8km の細長い湾です。チリ地震津波では、波高が湾入り口で 1.4m であったのに対し、湾奥では 6m と 4 倍以上に増幅されました。湾の奥では両岸から押し込まれるような状態になって波が高くなります。1896 年の明治三陸津波では湾内の最大波高 18.3m, 1933 年昭和 三陸津波では 13.6m でした。



[http://dil.bosai.go.jp/workshop/01kouza\\_kiso/tsunami/wave.htm](http://dil.bosai.go.jp/workshop/01kouza_kiso/tsunami/wave.htm)

